



芸術の自由はどこで終わるのか？

日本とドイツにおけるアートと表現の自由 - アートと民主主義についての対話

日本（日本国憲法第21条）とドイツ（基本法第5条）では、表現と芸術の自由は貴重な財産とされています。自由で民主的な基本秩序を保障するためには、それを守らなければなりません。しかしながら、国家の影響力の行使から市民を護るこうした権利が十分に考慮されない、あるいは芸術作品やその著作者が、しばしば政治的な意図により制裁や検閲を受け、禁止されるといった例や現状があります。政治や経済からの圧力を受けずに芸術の自由を守り、維持するにはどうしたらよいのでしょうか。

こうした背景を踏まえて、パネリストたちは日本とドイツにおけるアートプロジェクトとその可能性、また制約や問題点についても考察し、得られた見識を今後のプロジェクトに応用できるように共通項を言語化することを試みます。

参加方法・日時

Zoomによるオンライン開催: [リンク](#)

2022年11月19日（土）

19:00~21:30（日本時間）

11:00~13:30（ドイツ時間）

言語: ドイツ語・日本語（同時通訳あり）

主催者: Art5 e.V. フリードリヒ・エーベルト財団

プログラム

主催者挨拶

ユ・ジェヒョン（キュレーター Art5 e.V.）

スヴェン・サーラ（フリードリヒ・エーベルト財団）

パネルディスカッション

司会: リンダ・ハヴェンシュタイン（美術家 Art5 e.V.）

嶋田美子（美術家）

津田大介（ジャーナリスト/あいちトリエンナーレ2019芸術監督）

アライ=ヒロユキ（美術評論家/キュレーター）

ドロテア・ムラデノヴァ（日本学者 ライプツィヒ大学）

シュテフィ・リヒター（日本学者 ライプツィヒ大学）

レギーナ・ミュールホイザー（歴史学者 ハンブルク社会研究所）